

ぐるめ散歩

和菓子

菓匠 志むら

狛江三叉路近くにある菓匠 志むらは、狛江にちなんだ数多くの和菓子を創作、テレビ番組などでも度々紹介される有名店。

店主の山岸秀宣さん(83)はこの道50年以上の和菓子職人で、東京や横浜の有名和菓子店で腕をみがいた後、昭和40年に現在の店を開いた。以来、市内にある亀塚古墳にちなんだ「高麗のかおり」を皮切りに狛江にちなん



山岸さんは竹串に刺して焼いたアユそっくり。遊び心にあふれた「みかん」も人気が高いという。

だ創作菓子を次々と発売してきた。多摩川のヨモギを使った「蓬かすていら」、狛江市観光協会の推奨商品に指定された「えだまめ羊羹」などアイデアとオリジナリティーに富んだ商品は多くの人に喜ばれている。なかでも「鮎の姿焼き」

食の安全にもこだわり、低農薬で有機肥料を使った材料とアルカリイオン水を使っている。また、狛江の史跡の地図をデザインした包装紙も好評だ。

山岸さんは「和菓子を通して狛江の良さを広めていきたい」と話している。

おすすめMENU

- ① 鮎の姿焼き ¥540
 - ② えだまめ羊羹 小 ¥330、大 ¥750
 - ③ 蓬かすていら 小口切り ¥170、箱入り ¥1,100
 - ④ みかん ¥500
 - ⑤ 高麗のかおり ¥190
- 五本松 最中 ¥150 (税込・丸中数字は写真参照)



☎3480-2074
東和泉2-2-2
営業=午前9時～午後7時
火曜休み(8日圏まで休業)

「鮎の姿焼き」など 狛江の創作和菓子

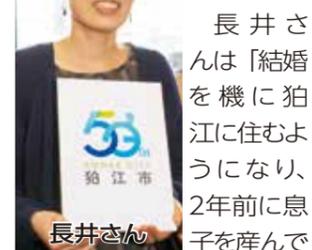


市制50周年のロゴとナンバープレート

行する印刷物や旗、記念イベントなどで使われる。

受賞した長井さんは愛知県出身で大学の美術科を卒業した。現在は会社勤めのかたわらデザインの仕事をしており、11年前から市内に住んでいる。

応募作品は、数字の「50」と狛江の「白」の字をモチーフに、「音楽のまち」「水と緑のまち」を表現するとともに、大きさが変わってもわかりやすいように配慮したという。



長井さん

育てていますが、地域に助けられることが多く、なにか恩返しをしたいと思って応募しました。締め切りギリギリに作品を提出しましたが、公募に応募したのは初めてだったので、選ばれてすごくうれしい」と喜んでいる。

ナンバープレート 最優秀に中原さん

ナンバープレートは102点の応募作品の中から千葉市の大学生、中原茂仁華さん(21)が最優秀作品に選ばれた。

中原さんは幼年期から中学3年の途中まで狛江で育ち、現在は大学で環境について学んでいる。デザインやイラストは独学だという。

応募作品は多摩川を背景に枝豆をくわえたカワセミ、



アユ、市の花のツツジ、市の木のイチヨウをあしらった狛江の魅力を詰め込んだ。文字が入っても全体が崩れないよう何度も下書きを繰り返したという。

中原さんは「狛江市に住んでいた頃を思い出しながら描きました。公募への参加はほとんどなく、受賞は初めての経験で、大きな賞をいただけとても光栄です。新型コロナウイルス感染症が猛威をふるう大変な状況ですが、事態が収束しみんな50周年を祝える日が来ることを祈っています」と話している。

ナンバープレートは10月から50cc以下の原動機付自転車に使われる。

とれたて 農産物直売所

荒井正さん(73)は、妻の寿美子さんとともに年間約30種の野菜と獅子ゆずなどの柑橘類、柿などを栽培している。通常は畑横にある直売所で販売、収穫量が多い時はJAマインズショップ狛江店に出荷する。早朝から販売するが、常連客も多く午前8時前に売り切れることが多い。

荒井さんは狛江GAP野菜研究会会員で土壌や農薬、肥料などをチェックしながら有機栽培を行っている。数種類の野菜を入れるサラダセットは、農薬を使わず虫の食害を防ぐためハウス栽培しており、年間を通しての人気商品。この時期は夏大根、ニンジン、モロッコインゲン、タマネギ、6月以降は枝豆、ナス、キュウリ、オクラ、トマト、ミニトマトなどが並ぶ。荒井さんは「外出が難しいこんな時こそ、野菜を食べて季節を感じて」と話している。



荒井正さん

所在地=中和泉4-22-17
販売=通年、木・日曜日休み
時間=午前6時(冬季は6時30分)~売場まで



フキ

5月の 狛江農産物

春の野菜として親しまれているフキは日本原産で平安時代から栽培されたと言われ、野原や川の土手などにも広く自生している。長く伸びた葉の柄の部分を利用する。早春に食べるフキノトウは地

下茎から出た花のつぼみ。市内の農家で栽培されているのは主に露地物で4月中旬から5月にかけて出荷する。選ぶ時は葉が鮮やかな緑色で、柄に張りがあるものが良い。時間が経つとアクが強くなるので、新鮮なうちに下ゆでして、水を張った容器に入れて冷蔵庫で保存する。

多摩川いかだレースと いかだサミットが1年延期

狛江古代カップ多摩川いかだレース第30回記念大会と全日本いかだサミット in 狛江が新型コロナウイルス感染症の影響で1年延期されることになった。

狛江古代カップ多摩川いかだレース実行委員会が検討した結果、新型コロナウイルス感染症が拡大し、今後の収束が見込めないため、イベントを安全かつ円滑に実施するのは難しいと判断して延期を決めた。その結果、いかだサミットは来年6月19日(日)に、いかだレースは7月11日(日)に開催される。

いかだレースの延期は第6回大会以来2度目。また、いかだサミットは、第30回と市制施行50周年を記念して、いかだレースなどを催している北海道から九州まで8団体が参加して6月20日(日)にエコルマホールで市

内で初めて開催される予定だった。

実行委員長の大西一郎さんは「いまは感染拡大防止が一番大切と考え決めました。来年のレースは30回にふさわしい、広く市民にアピールできる企画を考え、町内会など市内の参加団体を増やし、若い世代の地域活動のきっかけにしたい」と話した。

また、初回からレースに関わっている実行委員の小川啓二さんは「いかだレースを通して、住民交流友好都市の山梨県小菅村をはじめ多摩川流域の交流を積極的に行って来ました。来年に延期となったサミットにおいて、さらに人と人がつながり、そしてまちとまちがつながるような夢と希望あふれる取り組みを展開したい」と意欲をみせていた。

狛江青年会議所が 次亜塩素酸水を配布

狛江青年会議所(秋元慈



次亜塩素酸水のボトルと秋元理事長

一理事長)が、新型コロナウイルスに対して殺菌効果があるといわれる消毒水(次亜塩素酸水)の生成と配布活動を行っている。

4月10日(金)に市役所に寄贈するとともに、市内の事

業所で市民に1人500mlを無料で配布しており、好評だ。

秋元理事長は「次亜塩素酸水の生成機を持っている事業所が市内にあるので、消毒用アルコールの入手が難しい状況を改善する役に立てばと会員が話し合っ

決めました。他の事業所に呼びかけて配布場所を増やしたい」と呼びかけている。配布事業所などは市のホームページで「次亜塩素酸水」で検索すると一覧などが表示される。

住まいと暮らしの調和を創る

新築木の家は安心・安全 自然と調和 癒し空間

健康優良100年住宅

リフォーム、全面改装
大得意

ご相談、プランづくり無料
建築士専門家が対応します

0120-565-321

フリーダイヤルまでお気軽に!
受付時間 9:00~18:00 土日営業

のーてん

URL▶http://www.token-h.co.jp
Email▶info@token-h.co.jp
狛江市若戸北1-7-9